温小だより

文 責
校長 高橋雄司

「特別活動」がもつ意義

うんどうかいが　はじまるまえは　きんちょう　しました。はやく　したくてがっこうに　いきました。
つなひきに　ちからをいれて　ひっぱりました。でも　まけました。くやしかったです。
うんどうかいが　おわったら　つかれました。

うんどうかいが　はじまるまえは　ときどき　していました。うんどうかいがはじまってからは　おきゃくさんが　いっぱい　きていたから　きんちょう　しました。つなひきを　がんばりました。

九月三十日（土）に開催した校内運動会後の一年生の感想の一部です。小学校生活初めての運動会。「緊張感」と「期待感」、「悔しさ」と「頑張り」、そして「疲労感」など様々な思いが、数行の言葉の中に込められています。

六年生にとっては最後の運動会。「目標に向かってやり遂げること」が一番のテーマだったように思います。特に応援パフォーマンスに向けては、内容と構成の検討だけでなく、練習の持ち方、役割分担、下学年への伝え方など多岐にわたってリーダーとして話し合わなければなりませんでした。なかなか折り合いが付かず、心の葛藤もあったと思います。しかし、それらを乗り越え、精一杯やり遂げようと全力で取り組んだ姿に、人としての成長を感じざるを得ません。

学校で行う運動会は、学習指導要領「特別活動」の中の「健康安全・体育的行事」として学校行事の一つに位置づけています。

「特別活動」には、①人間関係形成②社会参画③自己実現の三つの視点があり、運動会は①③の視点と深く関わっています。

全校や各学級で取り組む活動の多くは、「特別活動」の視点でねらいを設定しており、「特別活動」には、教科学習にはない「学び」が多くあります。従って、教科学習以上に時間と労力を必要とする場合もあります。如何にバランス良く学校教育活動に「特別活動の意義」を組み入れていくかは、学校の大事な課題の一つです。

「手話狂言」に学ぶ

今年度の文化芸術鑑賞教室では、「日本ろう者劇団」の方々による「手話狂言」を鑑賞しました。「手話狂言」は、和泉流狂言師三宅右近師の指導により、昔から継承された狂言特有の動き、運びをそのままに、手話表現の研究を重ね、古典芸能にふさわしい手話による狂言として研究を重ねられました。手話のセリフと手話通訳による声のタイミングや間の取り方にも工夫を重ね、古典芸能の強靭さと手話の豊かな表現力をあわせもつ、手話狂言が誕生しました。（社会法人トット基金ＨＰより）

前日のワークショップと合わせて、ろう者の方を理解する大変良い機会となりました。日本の伝統芸能の一つに触れたことも意味が大きかったと思いました。

【今後の主な予定】

１０月１４日(土)～１５日(日)	なかよし作品展（三瓶青少年交流の家）
１０月１９日(木)	稲刈り体験（5年生）
１０月２０日(金)	学習公開日　5･6年生防犯教室　メディア講習会
１０月２１日(土)～２２日(日)	県科学作品展（三瓶青少年交流の家）
１０月２６日(木)	クラブ
１０月２７日(金)	全校朝礼 教育実習終了 くず料理体験（2年生）
１０月２９日(日)	しまね数リンピック
１１月　２日(木)	委員会
１１月　８日(水)	連合音楽会（5･6年生参加） ゆのつっ子元気週間（~14日）
１１月　９日(木)	クラブ
１１月１５日(水)	学習発表会リハーサル
１１月１８日(土)	学習発表会
１１月２０日(月)	振替休業日

9月30日　校内運動会

10月3日・4日　芸術鑑賞教室（手話狂言）

十月四日、狂言師の三宅近成さんも加わり、「手話狂言」の本公演を鑑賞しました。豊かな表現力に魅了されました。

十月三日、芸術鑑賞教室「手話狂言」ワークショップの様子です。ろう者（演者）の方から簡単な手話を習い、コミュニケーションのとり方などを教えていただきました。

10月7日　大田市小学生体操競技会

十月七日、大田市小学生体操競技大会が四年ぶりに開催され、温泉津小からは九名の児童が参加し、マット、鉄棒、跳び箱の中から演技を発表しました。

男子女子三種目総合の部で六年生の清水恵悟さんが四位、渡利南海さんが六位入賞を果たしました。